

図書館中期経営目標取組状況(令和4年度)

中期経営目標(実施期間 R4～R9)

県民の多様な文化活動・文化交流の場として、県民に開かれた「文化立県・石川」の新たな“知の殿堂”を基本コンセプトとし、石川県立図書館は令和4年7月に新築移転オープンしました。図書館では、開館に合わせ、基本理念「思いもよらない本との出会いや体験によって、自分の人生の1ページをめくることができる場所」を定め、この基本理念を実現するため、開館年以降5年間（～R9年度）の中期経営目標を定めました。

開館年は、初年度としての特別な要員や需要があり、年度途中からの運用でもあったことから平準化するため、開館2年目からの5年間の目標を設定します。

- ①新たな賑わいの拠点としての運用を目指し、来館者数年間100万人台を維持します。
- ②従来の図書館サービスの利用者も増やすことを目指し、利用者カードの新規登録者数を、毎年1,500人ずつ増やします。
- ③適切な蔵書管理を行い、県民の読書推進を図ることを目指し、年間貸出冊数40万冊を目指します。
- ④多様な資料を収集し提供していくことを目指し、資料検索システム「総合検索システムSHOSHO」の検索可能件数（資料数）を、R9年度までに1,770,000件を目指します。
- ⑤来館者やイベント参加者によるアンケート結果に基づく利用者満足度について、85%の維持を目指します。

1 中期経営目標の進捗状況

測定指標	基準値(旧館のR元)	(参考)R4(7/16開館)	R5目標値	最終目標値(R9)
①年間来館者数	257,589	781,318	1,000,000	1,000,000
②利用者カード新規登録者数	1,355	51,484	1,500	1,500
③年間貸出冊数	129,150	459,186	400,000	400,000
④館内コレクション総合検索「SHOSHOISHIKAWA」検索可能件数	—	1,559,499	1,602,000	1,770,000
⑤利用者満足度	85%	94.1%	85%	85%

2 令和4年度における主な取組内容

(1)施設の利用促進及びサービス(満足度)向上に向けた取組

- ① 新図書館開館にあたり、施設の利用促進のために次の取り組み（整備）をしました。
 - ・文化交流エリアには、得た知識をアウトプットするためのスペースや機器を設置しました。
 - また、だんだん広場や研修室、ラーニングスペースなど、図書を目的とせず利用できる場も整備し、貸しスペースとしての運用も開始することで、様々なイベントの実施を可能にしました。
 - ・子どもだけでなく大人も楽しめるこどもエリアを設置し、親子等で過ごしやすい環境を整えました。
 - ・障害のある方も健康な方も含めた幅広い利用者に対応したユニバーサルデザインに配慮しました。また、対面朗読室も整備しました。
 - ・開架冊数30万冊を提供するために図書を購入し、当館を特徴付ける石川コレクションを多数収集しました。
 - ・歴史公文書も含め、様々な資料がワンストップで検索可能になる館内コレクション総合検索「SHOSHOISHIKAWA」の検索可能件数の運用を開始しました。
 - ・館内に「エリアナビ」「ブックナビ」「案内看板」を設置し、利用者自らが目的の場所まで到達できるようにしました。
 - ・混雑緩和やプライバシーの配慮等のため、セルフ貸出機や資料予約棚を導入しました。
 - ・多様な閲覧席や諸室を整え、Wi-Fiも提供することで、様々な利用目的に応じた使い方ができる環境としました。諸室の予約についてはWEBでも対応可能なシステムとしました。
 - ・コイン複写機を設置した、資料複写サービスを提供することとしました。
 - ・県立自然史資館との連携を図るため、サテライトブースを設けました。
 - ・広報戦略の1つとして、HPを再考しました。

② 開館後、利用促進及びサービスの向上に向け次の取組みをしました。

- ・いつも何かやっている図書館となるよう、自主及び共催イベントを多数実施し、また、知識をアウトプットするワークショップ型イベントにも取り組みました。他機関と連携して、大型企画展も3回実施しました。
- ・県民の皆様が利用できる貸しスペースの運用を開始し、多くの方に利用していただきました。
- ・円形書架に12のテーマの図書を7万冊配架し、ライフステージ上の悩みや課題へのサポートをしました。
- ・3階の調べものデスクでは、レファレンスサービスを行い、メール等での対応も行いました。
- ・児童書の全点購入を行い、良書の提案を随時行いました。また、読み聞かせ会も毎週実施しました。
- ・新たに開館した図書館を滞りなく運用していくため、委託業者とともに職員研修を多数実施しました。館内では書架を整えるボランティアの受け入れを始めました。
- ・開架30万冊の更新と管理を滞ることなく実施しました。
- ・県及び市町の行政資料も含め、石川県関係の資料の収集に努めました。また、歴史的公文書の移管を受け、適切に保存管理しました。
- ・利用者からの推薦図書アンケート制度を導入し、収集方針・選択基準に基づきながら、図書・逐次刊行物等の収集に努めました。
- ・利用頻度の高い郷土資料のデジタル化を計画的に進め、ウェブサイトでの公開に努めました。
- ・県内公共図書館や大学図書館等との相互貸借の運用や資料搬送業務を実施しました。新たに5館の大学図書館と連携契約を締結しました。
- ・館内のデジタルサイネージで県内の文化施設の情報を発信しました。また、県立歴史博物館との連携展示を実施し、双方の利用促進につなげました。
- ・県立自然史資料館の学芸員による共同イベントを複数回開催しました。
- ・HPでのイベント情報の紹介や、Twitterでの日々の図書館の発信を切れ目なく行い、見てみたくなるウェブサイト作りに努めました。また、視察や見学者の積極的な受け入れも行いました。

(2)施設運営の効率化に向けた取組

- ①業務のマニュアル化を図り、迷う時間を省くための仕組みづくりに努めました。
- ②少ない人数で継続的に館を運営していくために、多くのサービスについてデジタル化を図ったことから、より多くの利用者の皆様がご自身でサービスを受けられるよう、職員が使い方を説明し、慣れていただくよう努めました。。

(3)その他の取組 (1)、(2)以外の取組があれば記載

- ①美しい図書館を維持するため、サインや掲示物の書体の統一と物量の調整を徹底しています。また、館内の汚れや破損はすぐに取り除くよう、委託業者とともに日々努めています。

3 令和5年度における取組内容の見直し等

- 開館間もないことから、概ね同様の内容を踏襲します。
- ・知を深める図書館となるよう、レファレンスサービスを周知、強化していくこととしています。
 - ・県民の皆様が県立図書館を知ってもらうため、広報活動に力を入れていきます。